

メッセージアウトライン

コロサイ人への手紙 3:7~11 「新しくされた人」

[7]「あなたがたも、以前、そのようなものの中に生きていたときは、そのような歩み方をしていました」

ここではコロサイ人たちの以前の暗黒状態 (3:5~6) を思い起こさせている。

[8-9a]「しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを捨ててしまいなさい。互いに偽りを言うてはいけません」

ここでは、古い以前の生き方をきっぱりと捨てることが命じられており、六つのことがあげられている。

①怒り…執念深くいつまでも持続している怒り。②憤り…カッとなって突然怒りが爆発する。③悪意…

人を傷つける態度、邪悪な思い。④そしり…他人に対する悪口、中傷、名誉棄損。⑤恥ずべきことば…わいせつや汚らわしいことば。⑥偽り…うそ、だますこと。

これらのことを捨ててしまいなさいとパウロが命じていることをみると、彼らはイエス・キリストを信じたとはいっても、なおもそのような生き方を引きずっていたと思われる。これは古い人に属する生き方である。

[9b-10]「あなたがたは、古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです」

パウロはここでイエス・キリストを救い主と信じた者のあるべき正しい姿を教えている。クリスチャンは古い人を、その行いといっしょに脱ぎ捨てて新しい人を着た者なのである。古い人の上に新しい人を着るのではなく、古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着るのである。→Ⅱコリント 5:17 そこには御霊の働きがある。

そして、この新しい人とは「造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至る」人である。→Ⅱコリント 4:16 もともと人は造り主なる神のかたちに似るものとして造られた。→創世記 1:26

この「神のかたち」とは、神は霊であり、かたちをもっておられないので、神の属性をあらわすものである。そこには、理性と自由と善悪を判断する能力を有し、霊的に神と交わりを持つことのできる精神性と人間をすべての被造物と区別する卓越性がある。

人間は創世記3章に記されている墮落以来、造られた本来の状態にはない。しかし、キリストにある者は新しく造られた者となり、神の前に造られた本来の状態に回復される。そのひとつの面が「真の知識」である。

それはキリストによって知ることのできる真の神知識であり、グノーシス哲学のような誤ったものではない。

それゆえ、クリスチャンは新しくされた人にふさわしく古く悪い生き方を捨ててキリストにある新しい生き方をしていかなければならない。→コロサイ 3:12~13、ガラテヤ 5:22~23
しかしこれは自力でがんばることを意味しない。私たちクリスチャンが日々、古い自我と肉の性質に死に（脱ぎ捨てて）、御霊によって歩んでいく時にそのような生き方ができるのである。

[11]「そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです」

「ギリシヤ人とユダヤ人」…ギリシヤ人にとってはギリシヤ語を話さない民族は未開人、野蛮人と見下していた。ユダヤ人は神に選ばれたという選民意識を持ち、他の国民は地獄の薪になるために存在すると考えていた。「割礼の有無」…選民であるかないか。「未開人」…劣った民族。「スクテヤ人」…未開人以上の未開人。モンゴル系の遊牧民族。「奴隷と自由人」…奴隷は人間の階級に入らず全く何の権利も持っていなかった。奴隷と自由人の間には何の交流もなかった。

しかし、キリストにあっては、もはやそのような差別も区別もないのである。今日でも世界には多くの差別、区別、階級制度、偏見などが存在する。しかし、キリストを中心としていく時、それらすべての人間的対立や差別が真の意味で取り除かれていくのである。

信仰者にとってすべての興味、関心、考えること、自分の存在理由は「キリストがすべて」となり、キリストがすべての民族、階級、身分の人々のうちにいてくださり、もはや何の差別もなくなるのである。

私たちも古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて、新しい人とされた者として、肉ではなく御霊により頼みつつ歩み、主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の神知識に至り、キリストがすべてと言える人生を送る者になりたい。